



## AI > 人間？

校長 星 美登里

思いのほか涼しい夏休みでしたが、皆様にはどんな夏休みでしたでしょうか。今年の夏も様々なスポーツで熱い戦いが繰り広げられました。汗をかきながら、己の限界に挑戦するべく頑張っていた陸上や高校野球、柔道等の選手たちから、感動と教訓をたくさんもらいました。

そして、「人工知能（AI）はここまで浸透してきたのか」と感じた夏でした。今まであまり気付かなかったのかもしれませんが。この夏行く先々のホールやビルの総合案内等で「人型ロボット」が大勢のお客さんに囲まれて会話し、案内している様子を見かけたのです。

15年以上前、「ミレニアム」に沸いていた平成12（2000）年頃のことです。私は友人の家に招かれ、初めて「ロボット犬」に目にしました。友人に呼びかけられて反応する「犬」に驚きました。友人がロボットの「犬」をまるで生きた飼い犬のように「かわいい」と話していたので、一層驚いたことを思い出しました。

平成25（2013）年、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授が、今後10～20年でアメリカの総雇用者の約47%の仕事が機械に取って代わられるリスクが高いと発表しました。その時は、「消える仕事」「なくなる仕事」という言葉が衝撃的でした。子供たちが大人になったとき、いったいどんな仕事があるのでしょうか。

さらに、AIは自ら思考し始めたといわれています。少し前から、囲碁や将棋のプロ棋士たちを次々と破っていくニュースも舞い込んできました。

この夏は、AIが人間には理解できない独自の言語で会話を始めたので、このプロジェクトを緊急停止させたとのこと。この先どうなってしまうのでしょうか。あの大ヒット映画「ターミネーター」の世界のように、近い将来、AIは人間を超えてしまうのでしょうか。スマートフォン歴2年、どちらかというアナログ派の私にはよく分からないのですが、AIをめぐる社会が急激に変化してきていることは分かります。

夏の間、学校のプールで、お祭りや地域で出会った子供たちの屈託のない輝く笑顔は、私を元気にしてくれました。いくらAIが進化したとしても、私たち人間ならではの、社会の問題を発見し解決する力、相手への共感力、創造力等はAIや機械には奪われないのではないのでしょうか。

平成32（2020）年度、10年ぶりに改訂された小学校の学習指導要領が全面実施になります。このような社会の構造的な変化も改訂の大きな経緯の一つです。学校はもちろん、南田中小の子供たちにかかわるすべての皆様と共に、子供たちが変化の激しい未来の担い手となり、幸福な人生を送れる力を身に付けられるようにしていきたいと存じます。

2学期の学校生活が始まり、子供たちが元気な笑顔で学校に戻ってきました。

2学期も皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 【みなみん学級 学校生活臨時支援員について】

廣村 悠平さんが6月末日で退職となりました。9月1日より牧野 泰典さん、田中 洋美さんが勤務します。

### 【学童擁護員について】

学童擁護員の田畑 守仁さんが8月末日で退職となりました。10月1日より伊地 皓二さんが勤務します。